

鄭州鞏義で開かれた杜甫の学会に参加して

この学会の名称は「詩聖杜甫与中華詩学国際學術研討会」。20日が「報到日」、21・22日が発表と討論、23日が「文化考察」、24日が「離会」という日程である。学会案内をコピーする。

“诗圣杜甫与中华诗学”国际学术研讨会

1 号通知

尊敬的 下定雅弘先生：

您好！

承蒙您俯允莅会，“诗圣杜甫与中华诗学国际学术研讨会”组委会深表感谢！盛会将至，兹敬告有关会议事宜：

一、会议时间安排：2018 年 4 月 20—23 日

1. 大会报到，接风晚宴：4 月 20 日

2. 学术会议

(1) 开幕式、大会主题演讲：4 月 21 日上午

(2) 分组讨论、圆桌会议：4 月 21 日下午—4 月 22 日上午

21 日晚：茶道活动

(3) 闭幕式：4 月 22 日下午

3. 文化考察：4 月 23 日；23 日晚或 24 日离会

二、下榻酒店：河南省·巩义市·华裕国际酒店（巩义市东区陇海路与惠民路交叉口）

三、会议论文

组委会正在完善最后的准备工作，会议手册也将付梓印刷。恭请与会代表在 4 月 10 日前将回执、论文电子稿（只发了题目和摘要，未发论文的作者）发送到邮箱 cgxydfyjs@sina.com。邮件主题标注：作者单位+作者姓名+参会论文题目，本次提交论文将集结成册，并于会后经作者修改后在国家权威出版社出版。

四、会议费用：本次会议不收会务费。与会代表往返交通费、住宿费自理。会议期间餐费、文化考察相关费用由主办方承担。

五、会务组联系方式：

郑州成功财经学院 王忠田：0371-64561222, 13592622276

杜甫研究所 海萌莹：0371-64561037, 13598891923

郑州大学 李小白：15736790698

六、接站

4月20日全天接站，会务组拟接站地点：

(1) 郑州新郑机场 (8:00-20:00)

(2) 郑州高铁站 (8:00-20:00)

(3) 郑州火车站 (8:00-20:00)

(4) 巩义高铁站 (8:00-20:00)

(5) 巩义火车站 (8:00-20:00)

七、注意事项：

1. 恭请在回执中将乘车、乘机车次及接送站点标注清楚。
2. 恭请在回执中填写手机号，并务必保持畅通，以便接站时联系。

中国杜甫研究会

郑州成功财经学院

郑州大学文学院

2018年4月4日

“诗圣杜甫与中华诗学”国际学术研讨会

回执

单 位					
姓 名		性别		职称（职务）	

移动电话				固定电话			
E-mail							
通讯地址							
乘机（车）	往	机（车）次		到站时间		到站点	
	返	机（车）次		返回时间		返回站点	
住宿要求	单人间（ ）			双人间（ ）			

会務手冊の表紙及び第一頁によれば、主催単位・準備委員会は以下の通りである。

詩聖杜甫與中華詩學國際學術研討會

會務手冊

主辦單位

中國杜甫研究會

中共鞏義市委 鞏義市人民政府

鄭州大學

鄭州成功財經學院

承辦單位

鄭州大學文學院

鄭州成功財經學院杜甫研究所

河南大學文學院

河南省社會科學院文學研究所

會議時間：2018年4月20日-23日

會議地點：中國·河南·鄭州·鞏義

詩聖杜甫與中華詩學國際學術研討會

籌備委員會

賈連朝 河南省原副省長
劉明華 中國杜甫研究會會長
劉鋒燾 中國杜甫研究會秘書長
袁三軍 中共鞏義市市委書記
范毓周 歐盟中國委員會文化委員會主席
吳澤強 鄭州成功財經學院院長
屈凌波 鄭州大學副校長
劉志偉 鄭州大學文學院副院長
曹辛華 上海大學中華詩詞創作與中心主任

會務服務組

王松 王忠田 劉燦

緊急聯繫電話

王 松	15324803818	王忠田	13592622276
劉 燦	13598847090	劉東楠	13526897669
李小白	15736790698	鄭瑞娟	15093281801

4月20日(金)

この学会に参加したのは、二つの理由による。その一つは、学会運営のリーダーであ

る劉志偉教授（杜甫研究所所長、鄭州大学文學院副院長）が旧知の人であること。私が、1996 年から 1997 年、在外研修で北京大学にいた時、劉志偉氏は中文系の院生だった。蘭州の西北師範大学教授で、白居易の研究を通じて知り合いだった蹇長春教授が、私たちを結びつけてくれた。劉志偉さんの宿舎に行き、白居易研究について語りあったことを覚えている。その後、連絡は時折だったが、今回は特段の熱意ある招待を受けた。いま一つは、私が、昨秋成立した日本杜甫学会の会長だということである。学会の成立を中国の学界に報告し、創刊されたばかりの「杜甫研究年報」を紹介するのは、私の任務だった。

京都女子大学の院生対象の講義を 2 コマ、金曜日担当していて、京女を休講にしての参加となった。フライトは以下の通り。



7815308597594

eチケットお客様控え/eTicket Receipt

発行日 PRINT DATE:27MAR18

お名前 NAME	SHIMOSADA/MASAHIROMR	航空券番 TICKET NUMBER	7815308597594
発券航空会社 TICKETING AIRLINE	CHINA EASTERN AIRLINES	発券日 TICKETING DATE	27MAR18
発券旅行会社 TICKETING AGENT	16312461/T206	予約番号 RESERVATION NO.	WOJQKP

■旅程/ITINERARY

日時 DATE	都市/空港 CITY/AIRPORT	時間 TIME	便名/クラス/座席 FLIGHT/CLASS/SEAT	予約 STATUS	ターミナル TERMINAL
20APR (FRI)	OSAKA KANSAI	09:30	MU0730/R/34J	OK	
	SHANGHAI PU DONG	10:45	CHINA EASTERN AIRLINES		TERMINAL 1
	FB:RLSRJP	NVB/NVA:20APR / 20APR BAG:2PC REF:NETS3B/MU			
20APR (FRI)	SHANGHAI PU DONG	16:55	MU9323/B/	OK	TERMINAL 1
	ZHENGZHOU	19:00	CHINA EASTERN AIRLINES		TERMINAL 2
	FB:RLSRJP	NVB/NVA:20APR / 20APR BAG:2PC REF:NETS3B/MU			
24APR (TUE)	ZHENGZHOU	12:00	FM0821/N/35C	OK	TERMINAL 2
	OSAKA KANSAI	18:30	SHANGHAI AIRLINES		
	FB:NLSRJP	NVB/NVA:24APR / 24APR BAG:2PC REF:NETS3B/FM			

FB: 運賃種別 NVB/NVA: 有効期限 BAG: 無料手荷物許容量 REF: 航空会社予約番号

■運賃/航空券情報/FARE/TICKET INFORMATION

支払方法	FORM OF PAYMENT	CASH
運賃	FARE	JPYBT
税金・料金等	TAX/FEE/CHARGE	2730SW 3100I 8170XT
合計	TOTAL FARE	JPYBT
運賃計算情報	FARE CALCULATION	20APR18 OSA MU X/SHA MU CGO M192.43FM OSA226.21NUC418.64END ROE112.505857 XT2330CN5840YQ
制限事項等	ENDORSEMENTS	Q/NON-END PENALTY APPLY

このeチケットお客様控えは、クレジットカードのみでお支払いされた場合のクレジットカードお客様控えも兼ねております。
搭乗手続き時には、出入国に必要な全ての書類とeチケットお客様控え、並びにパスポート等の身分証明書を提示ください。
このeチケットお客様控えは、航空券の発券時点での内容が反映されています。最新の予約状況は旅程表画面をご覧ください。
航空会社より提供される運送やその他のサービスについては、運送約款に従います。運送約款は航空会社から入手することができます。
航空会社により、受託手荷物に別途手数料が必要な場合があります。手荷物に関する詳細は、各航空会社ホームページにてご確認ください。
【各航空会社 手荷物情報ページ一覧】 https://www.infini-linx.com/OtherInfo/baggage/carrier_baggage.html
エアノール、花火、可燃性の液体物等の危険物は、航空機内への持ち込みが禁止されております。これらの制限事項に関するご不明点は、航空会社へお問い合わせください。
This eTicket Receipt is the official charge receipt for credit card payment only. Please present all necessary country specific travel documentation, Itinerary/Receipt, and positive identification such as passport when checking in at the airport. This Itinerary/Receipt only shows you the relevant information at the time of ticket being issued. For the latest information, please refer to your Itinerary. Carriage and other service provided by the carrier are subject to conditions of carriage, which are hereby incorporated by reference. These conditions may be obtained from the issuing carrier. Baggage fees may apply depending on the airlines' baggage policies. Please refer to airline's website for detailed information.
<Airline website links> https://www.infini-linx.com/OtherInfo/baggage/carrier_baggage.html
The carriage of certain hazardous materials, like aerosols, fireworks, and flammable liquids, aboard the aircraft is forbidden. If you do not understand these restrictions, further information may be obtained from your airline.

朝 6 時過ぎに、富田林の拙宅を出た。上海空港を経て、鄭州空港に 19 時着。成功財
経学院の女性の老師がタクシーで、ホテルまで連れていってくれた。鄭州空港から鞏義

まで 120 キロ。8 時 45 分に華裕国際酒店に到着。雨の中、1 時間 40 分ほどかかった。

ホテルにつき「報到」の手続きをしていると、劉志偉教授が会いに来てくれて、互いに自然にハグをすることになった。前に会ったのはいつかと聞くと、「22 年前」ということだった。そう、会うのは、あれ以来だったのだ。

劉志偉教授の院生、毛同学（碩士一年）がめんどろ見てくれることに。毛君に、「杜甫研究年報」を渡した。会議などに遅れないように、時間前に声をかけてくれる学生（成功財經学院の女子、一回生）も付いた（会議や出発の 15 分前には必ず部屋のドアをノックして知らせに来て、私がエレベーターに乗るのを待ち一緒に会議室や出発場所までいく。冗談に「管理非常嚴格！」と言ったら笑っていた）。部屋は 14 階の 1406 に。

部屋に入って、落ち着く間もなく、どこか近くの店で白酒を買おうと思った。が、ホテルのまわりに普通はある小さな店が見つからない。火鍋の店があり、ガラスのドアの向こうのカウンターの後ろに白酒が並んでいたのので、「綿竹？（劍南春だったか、忘れた）」を買った。中瓶で 56 元。これを毎晩、寝る前に飲み、4 晩で飲み干した。今回の学会では、夕食の終わるのがいつもとちがい格別待ち遠しいことになった（理由は後述、22 日晩餐の所に）。

4 月 21 日（土）

午前、7 時、毛さんがドアをノックした。「まだ上菜（配膳）を始めたところ。10 分後に来ます」と。10 階だったか、会食の部屋があり、ここで、学会運営の重要メンバーらが 10 人余で食事。

この時、劉志偉さんに、「杜甫研究年報」18 冊を渡した。「誰に渡すかは、劉先生に任せます」と言って。会議参加者の重要人物や、劉先生の親しい人に渡してもらえたら、という思いだったが、劉先生、学会中忙しすぎて、もしかしたら、ちゃんと渡せていないかもしれない。

【開幕式】

8 時過ぎにバス出発。鄭州成功財經学院へ。その大礼堂で開幕式。礼堂には、専門の参加者、来賓及び学生が参集。大きな礼堂で、2 階も、3 階もぎっしり。こんなにたくさんの方が参加する開幕式は初めてである。後で聞くと、成功財經学院の学生が多数動員されていた。



開幕式は 8 時半から 9 時 20 分。

劉志偉教授が主持人（司会進行役）。1、祝辞の代読。2、成功財經学院の学院長吳沢強教授の歓迎の辞、3、鞏義市幹部の挨拶。4、河南省元副省長賈連朝氏の挨拶。5、中国杜甫研究会会長劉明華教授の開幕の辞で、進行した。

【合影（記念写真の撮影）】

開幕式の後、礼堂前で集合写真。



写真に収まったのは107人、うち女性34人。前列左から5人目が劉志偉教授、右から5人目が下定、8人目が劉明華教授（中国杜甫研究会会長）

下の写真は、22日、閉会式の前、鄭州大学の図書館前でもの。ここに挙げておく。



全62人、女性15人。

やや体裁が悪いが、鮮明度を重んじて、左半分と右半分を拡大する。



一列目、左から五人目が下定。四列目、一番左が、劉志偉教授のご令嬢（書法家）。



二列目、一番右が劉志偉教授

【主題發言】

「主題發言」は9時40分～11時半。以下の6人が予定されていたが、韓国の金相日教授は未到着で發言はなかった。主持人は劉明華教授（重慶市人民政府参事・重慶市政協常委・西南大学文学院教授）。

- 1、汪德邁教授（Léon Vandermeersch、仏蘭西学院 L' Institut de France 通訊院士。高等研究實踐學院 École pratique des hautes études の教授を1993年退職）：「試論中国唐代的詩人杜甫与法国中世紀詩人弗朗索瓦維庸 (François Villon) 的風格」。評議人：薛天緯（新疆師範大学文学院教授）。



- 2、 俞寧教授（美国西華盛頓大学終身教授）：「論杜甫夔州涉虎詩及其生態意識」。
評議人：沈文凡（吉林大学文学院教授）。



- 3、 齐文榜教授（河南大学文学院教授）：「清代杜集版本考述」。評議人：查屏球（復旦大学中文系教授）。



- 4、 下定雅弘（日本岡山大学名誉教授）：「杜甫的“独善”」。評議人：胡旭（厦門大学中文系教授）。

学会の成立については、「杜甫研究年報」創刊号の拙文「創刊の辞」に拠って報告。

創刊の辞

日本杜甫学会会長 下定雅弘

日本杜甫学会が、二〇一七年一〇月六日、山形大学において創立された。学会の設立は、近年、杜甫への関心が際だって高まっていることがその背景にある。

杜甫は詩聖だといわれる。杜甫の詩は、杜甫以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。それは、杜甫以前・杜甫以後の全ての中国詩へ、さらに広く深く読者を誘う力強い導き手でもある。それゆえに、五山の僧の杜甫への崇敬があり、芭蕉の杜甫への傾倒があり、明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始めとして、知識人・国民の間で、杜甫への親愛の念は一貫して揺るがないものだった。漢文教育の衰退が嘆かれる中でも、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。

この多くの人々の杜甫への思いを我がものとして、二〇一六年、『杜甫全詩訳注』（講談社学術文庫）が刊行された。この書は四〇名近い研究者の共同執筆によつて刊行された。これは鈴木虎雄の『杜少陵詩集』（続国訳漢文大成、一九三一年完結）の刊行より八十有余年にしてようやく成った杜甫全詩の訳注である。

杜甫への思いと関心の高まりは、それだけではない。興膳宏氏の補筆により、吉川幸次郎『杜甫詩注』（岩波書店）が、その完結を目指して刊行され続けている。

日本におけるこの杜甫への関心の高まりは、中国における蕭涤非主編『杜甫全集校注』（人民文学出版社、二〇一四年）や謝思煒『杜甫集校注』（上海古籍出版社、二〇一五年）、またアメリカにおけるステイブン・オーウェン主編の杜詩全訳『The Poetry of Du Fu (杜甫詩)』（ドウ・グロイター社、二〇一六年）の刊行と軌を一にしている。日本杜甫学会は、国を越えて盛り上がる研究と普及の機運を受けて必然的に誕生したものである。我々はこの機運をいっそう盛り立て、堅実に発展させてゆく使命を担っている。

杜甫の詩に「乾坤万里の眼、時序百年の心」（春日江村五首「其二」）という句がある。世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で無窮の未来に向かって杜甫研究を進展させ続ける、その母体に学会と本誌があることを誓って、創刊の辞に代える。

5、邵寧寧教授（海南師範大学文学院院长）：「唐詩中的空茫意緒」。評議人：呂紅（美国華文文芸界協會/紅杉林雜誌社）



6、金相日教授（韩国東国大学教授）：？。評議人：施議対（澳門大学文学院院长教授）
金教授は未到着で、発表なし。

発言時間は、それぞれ 10 分。

私は、昨秋の日本杜甫学会の成立をまず報告（上掲「杜甫研究年報」「創刊の辞」に拠る）。
その中で、『杜甫全詩訳注』4冊の現物を示して、改めて参加者たちに紹介。



主題の「杜甫的“独善”」については、5分程度で概要を発表（本文は本 hp の、「研究」→「杜甫」に）。評議は、着眼の良さを高く評価すると同時に、「独善」はもともと孟子の語で、この点についての説明がほしかった旨の評をいただいた（これは「分組討論」で補充）。評者の発言が終わると、劉明華会長が、「中国での杜甫研究とその活動はほとんど国内に限られていた。今後は、日本杜甫学会と力を合わせて、杜甫の国際的な学術交流をもっと進めていきたい」と述べ、握手を求めてこられた。私達は腕を振りながら何度も堅い握手を交わし、会場は満場の拍手に包まれた。

一階のレストランで、バイキング昼食（21日・22日夜もこのレストランでバイキング）の後、昼寝。

【分組討論第一回】14:30～16:30

午後は、2時半～4時半、4つの組に分かれて発表・討論。会場は、ホテル2階の1号～4号の会議室。A～Dの4つの組に、1号～4号の会議室が割り当てられ、発表・討論を行った。4つの組は研究の主題に基づいて分けられたもので、Aは「第一部分 杜甫及杜詩研究」、Bは「第二部分 杜甫及文化研究」、Cは「第三部分 杜甫及其接受研究」、Dは「第四部分 杜甫及跨界与中西比較研究」。A組がやや多く18人、他は15名前後。各組のメンバーは以下の通り（会務手冊をコピー）。私はA組に属した。

研討會分組名單

(以漢語拼音為序)

A組 18人 華裕酒店二樓一號會議室

范毓周 董緒公 胡永傑 邵寧寧 王章才 王星光 于 格 王永寬
吳懷東 吳淑玲 下定雅弘 楊波 張德恒 張一南 趙建成 鄭 玲
杜保才 曹鏡州

B組 15人 華裕酒店二樓二號會議室

蔡玲婉 曹業鋒 汪德邁 杜曉勤 馮玉雷 高小慧 葛景春 黎 斌
李曉紅 劉 暢 劉占召 劉志偉 李小白 聶濟冬 查屏球 張思茗

C組 16人 華裕酒店二樓三號會議室

崔花豔 陳麗麗 曹辛華 胡旭 萬一方 胡耀震 劉重喜 賴貴三
齊文榜 王宏林 王潔松 王偉 顏程龍 王學婷 張東豔 趙厚均

D組 14人 華裕酒店二樓四號會議室

陳 斐 傅修海 金 琳 劉明華 趙維江 梅啟波 施議對
孫寶靈 萬潤保 衛紹生 薛天緯 徐兆壽 俞 寧 趙 鯤

午後、2時半に分組討論始まる。主持人（司会進行）は、王永寬（河南省社会科学

院)・聶濟冬(山東大学儒学高等研究院)。発表者と題目は次の通り。

胡永傑(湖南省社会科学院文学研究所)「杜甫所訪華蓋君或為司馬承禎等事初微」、邵寧寧「唐詩中の空茫意緒」(主題発言で発表済み)、吳懷東(安徽大学文学院院长)「杜甫<偶題>“文章千古事、得失寸心知”釈証」、吳淑玲・韓成武「杜甫樂府詩的体例類型」、王星光(鄭州大学歴史学院教授)、于格「名豈文章著、官因老病休—杜甫的詩和病」、王永寛教授「杜甫詩不詠海棠芻議」。

この日の発表では、一番手、胡永傑教授の発表が抜群に面白かった。杜甫が仙道を学ぼうとした華蓋君は司馬承禎(玄宗に法籙を授けた道士)であり、かつそれは「求仕」の願いと結びついていたというもの。

吳淑玲・韓成武の報告は、残念ながら韓成武(『杜甫詩全訳』の著者)は参加していなかった。

王星光・于格の発表は、碩士の于格さん(女性)が代読。杜甫の病が分かる100首余の詩を分析し、その病態と精神を考察したもの(于格さんには、後で、『唐代文人疾病攷』[白居易・杜甫・柳宗元・李商隱・温庭筠・蘇軾の疾病を考察]の著者小高修司氏[癌治療の専門家で中医]のことを紹介しておいた)。

王永寛教授の発表は、杜甫が「海棠」を詠じなかったのは、それが杜甫の母の名が「海棠」なので諱を避けたからだ、いやそうではないという、唐以来今に至るまで続く議論を整理するもの。私が評議人になっていたので、「そもそも、白居易に比べると、杜甫は具体的な花の名称を詠じることが少ない。海棠が詠じられていないのは、特に問題にすることではないでしょう。杜甫の花の詠じ方を問題にすることが大切では」と、簡単な評議をした。

※以下、分組討論については、私が属していたA組のそれについてのみ記す。内容は印象が強かったものについて簡単に言及するに止める。また発表者の敬称を略することがある。



分組討論：王永寬・吳懷東・吳淑玲・張一南諸氏

【円卓論壇第一回】16:45～17:50

この後、休憩を入れて、4時45分から円卓論壇。休憩の時から、21日午後以後の新しい日程表が配られ、22日午前の円卓論壇第二回の「嘉賓」（発言者）に私の名も入っていたので驚いた。さて何を話すかいろいろ考えたが、この日の夜「杜甫研究年報」の紹介をすることに決めた。

お茶休憩の後、2時45分、1号室に全員が集まった。第一回のテーマは「詩聖杜甫・芸術・科技・一帯一路」。主持人は、魏明孔氏（中国社会科学院経済研究所研究員）・雷紫翰氏（蘭州大学華夏文明伝承創新発展研究中心）。嘉賓は、馮玉雷（西北師範大学絲綢之路雜誌社）・頼貴三（台湾師範大学文学院国文学系教授）・席彦召（河南社会科学院杜甫研究所副所長）・劉重喜（南京大学文学院副教授）・張偉（經濟日報主任記者）・董緒公（四川東方大地律師事務所主任）・金琳（河南農業大学文法学院）。

円卓会議の発言は比較的自由。論文の概要を述べた人もあり、そうでない人もあった。



円卓論壇：右二人、劉重喜氏（南京大学）・賴貴三氏（台灣師範大學）



円卓論壇：雷紫翰（蘭州大学華）・魏明孔（中国社会科学院）・席彦召氏（河南省社会科学院）

【茶会】19:00～22:00

晚餐の後、ホテルの錦繡庁というホールで、「“月是故郷明”迎賓茶道」と題されたお茶会。「月是故郷明」は杜甫「月夜憶舍弟」の一句。



お茶を入れてくれる女性たちの入場。



茶会で、劉志偉教授が挨拶



第一道：牡丹の花、第二道：安溪の鉄観音、第三：普洱茶、第四：肉桂茶



私が坐った席。

厳粛な茶会だった。お茶は、牡丹の花に始まり、鉄観音・プーアル茶・肉桂をいずれも、ゆっくりと時間をかけて飲ませてくれた。下定の右の女性は、成功財經学院で中国現代文学を教える翟麗娜先生。鞏義の民間伝説の話などをしてくれ、翌日、私は買えるからと、『鞏義民間故事集』（馮徳宏主編、中国文史出版社）という本をくださった。左の方は河南鞏義杜甫文化研究会副会長、杜保先生。杜甫五十何代目かの後裔（家譜があるとのこと）。

4月22日（日）

【分組討論第二回】8:30-11:00

発表者と題目は次の通り。

王章才（鄭州大学文学院）「論杜甫文体写作的“集成性”」、下定雅弘「杜甫的“独善”」、楊波（河南省社会科学院）「論杜甫的〈八哀詩〉」、張徳恒「杜詩“終古立忠義、感遇有遺篇”考釈」、張一南（北京大学中文系）「杜甫的五言格詩（引用作品）」、趙建成（復旦大学中文系、博士後流動站）「前世来世—杜甫〈夢李白〉二首靈魂入夢情節劄記」、鄭玲（北京師範大学—香港浸会大学聯合国际学院）「道林寺杜詩碑板考辨」。

下定は、主題発言の時、言い落とした白居易の独善の観念について補充した。

張一南氏（女性）の「格詩」についての発表は、忙しかったということで論文にはなっていなかった。五言古詩とされているものの押韻・平仄・拗句などを調査して、律調が相当の比率を占める作 19 首を「格詩」と認定すべきではないかと提案するもの（聞き取れない所があり筆者の理解不足があるかもしれない）。これについては、数名以上の人から意見・反論があり、大いに盛り上がった。私も、「盛唐以後の詩人たちは、普通に作れば律調になってしまう傾向がある。古体にする場合、律調であったものを崩すことが多い。王維の古詩と認定されている詩なども、実は半古半律が非常に多い」と述べた（今思うに、張氏は「格詩」の意義自体、正確に捉えていないのではないだろうか）。範毓周氏は、かなり大胆に研究に余り意味がないと批判、張一南氏は腹を立てて、途中で会議室を出ていってしまった。



範毓周・吳懷東・張一南・張建成・鄭玲諸氏

【円卓論壇第二回】 10:45-11:50

第二回のテーマは「詩聖杜甫与当代世界」。主持人は、範毓周・王宏林（河南大学文学院教授）。「嘉賓」は、葛景春（河南省社会科学院研究員）・趙維江（暨南大学文学院教授）・奚彤雲（上海古籍出版社副総編）・傅修海（華南農業大学文法学院教授）・下定雅弘・呂紅（美国華文文艺界協会会長）・梅啓波（鄭州大学文学院副教授）・趙鯤（天水師範学院副教授）。

奚彤雲氏は、近年の杜甫全詩の校注・訳注について丁寧な報告をした。その骨子は、「杜甫研究年報」の「創刊の辞」とほぼ同じ。中国の成果については、2016 年秋、「文匯学人」（2016, 10. 21）に掲載された陳尚君氏の書評「近期三種杜詩全注本的評介」を主な資料としていた。



円卓論壇：梅啓波氏（鄭州大学）・奚彤雲氏（上海古籍）・葛景春氏（河南省社会科学院）。

下定は「杜甫研究年報」の紹介を行った。ここに表紙（目次）をコピーしておく。

杜甫研究年報

〔創刊号〕

創刊の辞

下定雅弘 1

〔論文〕

杜甫を育くんだ世界——継祖母盧氏の氏族観を手掛に

松原朗 2

「家中」とは妻のことか——杜甫「縛雞行」について

後藤秋正 20

菅家と杜詩——杜甫詩集在菅家廊下

丹羽博之 33

〔研究概況及び文献目録〕

台湾における過去三十年間の杜甫研究要説

及び論著集録（一九八五—二〇一五）

李奇鴻・陳安琪（加藤聰・訳） 42

香港における近年の杜甫研究概況

呂家慧・陳偉強（加藤聰・訳） 60

最近の韓国における杜甫研究の動向

金卿東・金銀雅（豊福健二・訳） 73

日本における杜甫関連著書一覽及び解題（一九九七—二〇一七）

大橋賢一・加藤聰・紺野達也 90

日本における杜甫研究集録（二〇一五—二〇一六）

大橋賢一・加藤聰・紺野達也 110

日本杜甫学会会則・編集後記

114

日本杜甫学会 〔編〕

勉誠出版

やや見にくいので、【論文】と【研究概況及び文献目録】について明記しておく。
【論文】は、松原朗「杜甫を育んだ世界——継祖母盧氏の氏族観を手掛に一」、後藤秋正

「家中」とは誰のことか—杜甫「縛鶏行について」、丹羽博之「菅家と杜詩—杜甫詩集在菅家廊下

—」。

【研究概況及び文献目録】は、李奇鴻・陳安琪（加藤聰訳）「台湾における過去三十年間杜甫研究要説及び論著集録（一九八五～二〇一五）」、呂家慧・陳偉強（加藤聰訳）「香港における近年の杜甫研究概況」、金卿東・金銀雅（豊福健二訳）「最近の韓国における杜甫研究の動向」、大橋賢一・加藤聰・紺野達也「日本における杜甫関連著書一覧及び解題（一八九七～二〇一七）」、大橋賢一・加藤聰・紺野達也「日本における杜甫研究集録（二〇一五～二〇一六）」。

なお大陸の研究概況及び文献目録については、質の高さ・分量の甚大の故、第二号に掲載することとし、著名な学者に原稿を依頼している。

「研究年報」には多くの学者が強い関心を示してくれた。日本杜甫学会・勉誠出版が、中国杜甫研究会に委託して、中国の学者が容易に入手できるようにする予定。



円卓論壇：左から、梅啓波・奚彤雲・下定雅弘（後方で撮影中）・葛景春・範毓周・王宏林・趙鯤・呂紅の諸氏。

【閉幕式】

「会議研討彙報」（分組での発表討論の要点の報告）」と「閉幕式」は、鄭州大学で行

われた。14時にホテルを、2台のバスに乗って出発。

鄭州大学は非常に面積の大きい大学で、校区内に地下鉄の駅が三つあるとか。



東門。バスはここから入った。

図書館前で。2時半に集合写真。



【会議研討彙報】 14:45～15:20

「会議研討彙報」、各分組の発表・討論の要点の報告が、鄭州大学図書館三階の「報告庁」でなされた。主持人は曹辛華教授（上海大学文学院）。



曹辛華氏（上海大学）

曹辛華氏は、「你在哪裏？」という中国で流行っている歌を、杜甫を敬慕する替え歌にして披露、ユーモアたっぷりの司会進行だった。

まず各分組の発表・討論についての報告。A組は胡永傑、B組は高小慧、C組は劉重喜、D組は傅修海の各氏によって、それぞれ8分程度で、簡潔に行われた。



胡永傑氏（河南省社会科学院）

よく整理された見事な報告で、実に頭がいいと感心した。自分の発表については何も触れず。



高小慧氏（鄭州大学）



劉重喜氏（南京大学）



傅修海氏（華南農業大学）

【閉幕式】

閉幕式は、17:20～18:40。主持人は劉鋒燾氏（中国杜甫研究会秘書長）。演壇には、劉鋒燾・葛景春・師求恩（鄭州成功財經学院副院長）・範毓周・李興成（鄭州大学）・汪德邁・汪氏の通訳の李曉紅・俞寧・薛天緯・查屏球の各氏。



劉鋒熹氏（杜甫研究会秘書長）・葛景春氏（河南省社会科学院）



師求恩（成功財經學院）・範毓周（歐盟中國委員會文化委員會主席）・李興成（鄭州大學黨委副書記・工會主席）・汪德邁・李曉紅（法國阿爾多瓦大學フランス）の各氏



薛天緯氏（新疆師範大学）の右側に査屏球氏（画面に出ていない）



查屏球氏（復旦大学）

薛天緯氏は、成都の草堂が杜甫研究の中心であるように、杜甫の故里である鞏義も杜甫研究の要地として発展することを願うと述べ、查屏球氏は杜甫故里の位置について論じた。

「致閉幕辞」は葛景春氏。提出された論文が50数篇であり、4つの分野のそれぞれについて進展があるとし、1、課題が多様化、2、新しい角度からのものが多い、3、詩作についても思想についても深化があった、という総括をした。

最後に李興成氏（鄭州大学党委員会副書記）の挨拶。

【校史館】16:50～17:30

閉幕式終了後、校史館を見学。校史館はまことに広いもので、私の知る範囲では、京都大学の時計台の建物内にあるその数倍以上の規模のものだと思う。



校史館



校史館を入った所



三強が一つの炉に溶かし鑄こまれた

この説明によれば、2000年7月に、元の鄭州大学・鄭州工業大学・河南医科大学の三強が合併されて新たな鄭州大学になり、「全国一流大学」を目指している。

校史館参観の後、バスに乗って、近くの「包丁堂」というレストランに向かい、18時頃から20時まで、ここで最後の晚餐となった。

【晚餐】18:00～20:00



包丁堂入口



晚餐の席で。鄭州大学文学院党委員会書記先生が誰かの発言に対して拍手。

晚餐に酒は出ず。「白水」、水が代わりに出され、これを酒の代わりにして、多くの先生がテーブルをまわり、乾杯を重ね、酒を飲んでいるのと同じように、雰囲気盛り上がっていた。私もこの影響を受けて、なんだか酔ったような気分になった。

正確なことは知らないが、2012 年、習近平主席が就任後、公の席では、酒を飲まないようにとの指令を出し（帰ってネットで見ると、まず軍に禁酒令を出している）、これがほぼ全国で守られるようになっていっているらしい。2 年前の秋、桂林での散文学会の際は晚餐で盛大に酒を飲んでいたので、今回の学会では、期間中、全く酒が出ず、しかも皆さん、実にすなおに何の文句も言わずに食事されていた。普通の夜食はバイキングだし、酒が出なくても特に何も思わなかったが、この晚餐は学会最後の晚餐であり、料理も贅沢なものだったので、余計に不思議に思った。

翌日、「文化考察」の時、ある教授に自分が不思議に思ったことを話すと、2012 年に習主席により禁酒令が出され、それがだんだんと末端にまで徹底されるようになっていいる。「外賓」が大学を訪問し、その歓待の宴などの時には飲んでも良いとのこと。今回は、中国の学者がほとんどで「外賓」は僅かだった。もっと外賓が多ければ酒が出ていたのかもしれない。何にしても私は、自分で買っておいいた「綿竹」の白酒を毎晩寝る前に飲んでベッドに入っていた。

4月23日（月）

【文化考察】

午前、洛陽組と鞏義組に分かれて、文化考察。洛陽には、これまで何度も行っている
ので、私は鞏義。「康百万莊園」と「杜甫故里」を参観した。



「康百万莊園」は、中国では最も完璧に保存された古代建築群のひとつで、巩義市康店村に位置している。「中国三大莊園」の第一（他の二つは、四川の「劉文彩莊園」と山東の「牟二黒莊園」）で、「明清第一の豪邸」と言われている。「康百万」は商家である。その呼称は明清以来康氏の家系の通称で、西太后（道光15年10月10日－光緒34年10月22日。清末期の権力者）によって授けられた。康氏家族は正直・勤勉・質素・奮闘という原則を守って信用を重んじ、十二代、四百年ほども繁栄していた。莊園は明代中期に建てられ始めた。莊園は住宅区・棧房区・工場区・祠堂区・南大院・龍窩溝・金谷寨・菜園・花園など十数部分から組み立てられ、総建築面積が64,300㎡で、庭園が33ヶ所、家屋が53屋、部屋数が1300室及び窯洞73室を持っている。北部の豪快感と豪放さと共に、南部の優美柔軟を兼ね備え、「古、大、

奇、美」を凝縮した建築群で、十七世紀の華北地区黄土高原では封建砦式の代表だと認められている。1963年6月、河南省人民政府によって「重点文物保护单位」と認定され2001年6月、中華人民共和国国務院によって「全国重点保護文化財」に指定され、2005年、「国家AAAAレベル観光エリア」の評価を与えられた。（ネット検索による幾つかの情報を整理した）



康百万正門



康百万莊園分布圖



プラカードを持つ成功財經学院の学生 彼女の姿を見失わないようにしつつ参観



【杜甫故里】

「百度百科」（中国の wiki）その他で、「杜甫故里」は以下のように紹介されている。

鞏義市区の東 10 キロの站街鎮南瑶湾村の筆架山の麓にある。杜甫はこの筆架山の麓の窯洞（山崖に掘った洞穴式住居）で生まれ、少年期をこの地で過ごした。今、河南省重点文物保护单位となっている。2007 年、鞏義市は国家の AAAA 级旅游景区標準に照らし、1.5 億元を投資して、杜甫故里を建設、ここを文化観光型の遊覧景区とした。



杜甫像が、門の向こうに見える



巨大な杜甫像



詩聖堂



詩聖堂の杜甫像



杜甫故里案内標示



杜甫が生まれたという窯洞、この向こうに筆架山がある。



窯洞の前で

杜甫の生誕の地については、後藤秋正「杜甫の生誕の地」(『杜甫全詩訳注』三)が、今日最も信頼できる。古代、杜甫の生誕地を記した文献はなかった。元稹の「唐検校工部員外郎杜君墓係銘」、新旧唐書の伝に記載なく、各種杜甫の詩注にも記載がない。生誕地を示すのは聞一多が河南鞏県(鞏義市)で生まれたとするのに始まり、馮至がさらに詳しく鞏県の東二里にある瑤湾(今の南瑤湾村)で生まれたと記す。これを踏襲するのが、日本では吉川幸次郎・目加田誠・森野繁夫・黒川洋一・興膳宏、中国では、王士菁・宋開玉・張忠綱らである。杜甫の本籍はもともと襄陽(湖北省襄陽市)だったが、曾祖父の杜以芸が鞏県の令となってからここが本籍地となった。だが、本籍が鞏県だったとしてもここが生誕の地とは限らない。杜甫の詩で鞏県の地名に言及するのは一箇所だけで、それを生誕の地とする認識は全く伺うことができない。鈴木虎雄は生誕の地を不詳とし、「杜陵老」「少陵老」と自称するのによれば、少陵(長安南郊)で生まれたか、あるいは河南(洛陽)か?としている。生誕地は鞏県でなく洛陽だとする見解もある。王輝斌は、杜甫の三十首余りの故郷に言及する詩の考察に基づき、杜甫は洛陽を故郷と意識していたとし、かつ生母の崔氏が早逝した後は、父方の叔母杜氏の、洛陽城の東、建春門に近い仁風里の屋敷で育ったことが洛陽に特別な思いを抱く原因になったと指摘する。松原朗は、杜甫が蜀に滞在した時期の詩に着目して、洛陽とりわけその東にある

陸渾莊を自己の唯一の故郷として心に刻んでいたと論じている。このように、杜甫の出生地は鞏県ではなく洛陽であるという見解が提出され、杜甫が故郷と意識していたのは洛陽であることが近年の研究で明らかになってきた。より限定的に言えば、洛陽城中の仁風里か、東郊、偃師の陸渾莊か。詳しくは、後藤の論を見られたい。

康百万莊園と杜甫故里と、二箇所の「文化考察」が終わって、12 時半頃ホテルにもどり昼食。休憩。

【慈雲寺】

4 時前に、劉志偉教授が手配してくれた車で、ホテルに残っていた数名の学者と共に、慈雲寺に行った。慈雲寺は、巩義市から 20 キロ余りの地、大峪溝鎮民権村にあり、総面積は 51 k m²。山中には千年古刹慈云寺があり、仏教が「中原」(黄河流域)に伝わった後、インドの高僧「摂摩騰」(迦葉摩騰)と竺法蘭が紀元 64 年に建立したといわれる仏教寺院。国家 AAA 級旅游景区になっている(ネットの記事・鞏義の旅游パンフレットなどを合成)。





住持の歓待を受けた後、9時前にホテルに帰還。帰りの車中で、賈島の専門家である斉文榜教授が同席。東晋以後の文人の研究をするのに仏教の知識が不可欠であることを、謝靈運・王維・杜甫・賈島らに即して、大いに語ってくださった。その篤実なお人柄にも感心。今回、学会に参加しての大きな収穫の一つとなった。

帰ると部屋が替わって 416 になっていた。ホテルを開催場所とする新たなイベントの関係で、変更された模様。

4月24日（火）

8時前に、鄭州大学の車に乗り出発。9時半頃には空港に着いた。上海浦東空港を経由して、18時半、関空に到着。20時半頃帰宅。